

Circular

理工サーキュラー

神田駿河台の 建築散歩

02

CST+なひと
江ノ島電鉄株式会社 取締役社長
深谷研二さん

04

神田駿河台の建築散歩

特集

08

神田駿河台の建築散歩 MAP

10

私の研究歴 127
武谷三男と科学史
物理学科教授 植松英穂

12

学生記者が行く！ 021

13

ZOOM UP !! CIRCLE
駿河台漫画研究会 / 理工自動車部

14 culture

15 announcement

16 event report



江ノ島電鉄株式会社 取締役社長

深谷 研二



日本大学理工学部（CST）で過ごした学生時代を自分の力（十）にかえて、各界で活躍する卒業生にお話を伺う「CST+なひと」。今回は、江ノ島電鉄株式会社取締役社長、深谷研二さん（土木工学科卒）です。

卒業して実感する 師の言葉

私が大学1年生のときに、日大紛争が起きました。2年生から駿河台に移りましたが、校舎はロックアウトされていて学生は入れませんし、授業ができる状況ではありません。しかし、ただブラブラしているわけにもいかないので、土木系のコンサルタントで土木の知識も教えてもらいながらアルバイトをしました。1年ほどで授業が再開されましたが、そうするととにかく単位を取るのに必死です。とくに単位が取りにくかったのは、粟津清蔵先生の水理学でした。水理学はテストのときに参考書の持ち込み可でしたので、同じような問題がないかと探すのですが、それで時間が終わってしまいます。何を見ても良いというテストは、やはり難しかったです。みんなが苦労しました。卒業式のときに、粟津先生が「君たちはいろんな分野へ進むだろうが、ただひとつだけ、水には十分注意しろ」と言われました。先生は水が専門ですから、水の正体をよくわかって

人脈は宝

先生への感謝の思いに変わりました。ませんでしたが、会社に入ってから身に染みしました。鉄道は水が原因の事故が多いですから。その言葉の意味がわかるようになり、苦しかった思い出が

私が就職した当時、小田急電鉄は大規模な工事計画を持っていましたので、高架橋の設計などができると思っていました。しかし配置されたのは保線区。線路の保守ですから緑の下の力持ちです。「華々しくものをつくりたい」という夢があったので、半年ほどはくさっていました。でもそのときの上司に「鉄道をやるには保線が基礎。保線を知らずしてものはつukれない」と保線魂をたたき込まれました。

その後本社保線課を経て入社8年後、施設課に異動して、今度はものをつくる担当になりました。図面を描いたり計算したりするのは学生時代から好きだったので一生懸命やりました。そうこうするうちに、大規模工事が次々に実施されていきました。その中で、私が計画から現場まで携わったのが、大和駅です。当時は相模鉄道が地表を走り、小田急は盛土高架で跨いで交差していたため、地域は鉄道で四分割されていました。相模鉄道連続地下化、駅前広場整備に伴う駅改良工事です。眠れない日々が続く、大変な仕事でした。当時は社内だけでなく、神奈川県や沿線の市、それぞれに日本大

学の先輩が必ずいました。気の良い先輩方で、仕事のことをよく教わりましたが、それぞれに立場がありますから丁々発止で喧嘩もします。でも、みんなが「良いものをつくらう」という共通認識を持っていたので、安心して喧嘩ができました。関係者はほとんどがすでにリタイアされていますが、いまだに昔話に花を咲かせて一緒にお酒を飲みます。丁々発止やり合った方々に、人脈としてそれ以後の仕事でどれだけ助けられたかわかりません。人と仕事をするのに、姑息な手段を使ったり回り道をしたりしてはダメで、正面からぶつかって本音で話せば、必ず結論が出るということを実感しました。

鉄道のゼネラリストとして

私は平成15年に箱根登山鉄道へ出向

し、専務を2年、社長を3年務めました。その間、平成19年に日本土木学会から箱根登山鉄道全体が土木遺産に認定され、箱根湯本駅の改良工事にも着手しました。「もうそろそろかな」と思っていたところ、平成20年に江ノ島電鉄の社長へ、山から海へとやってきました。

江ノ電は延線が10kmあります。3.5kmが藤沢市、6.5kmが鎌倉市ですが、江ノ電が藤沢市と鎌倉市の地域と観光の鎖になっています。地域と一体になっていないと、鉄道はとも生きていきません。とくに地方の私鉄は大変です。われわれにできることを考え、例えば各社のポスターを江ノ電の駅に張ったり、イベントでグッズを販売したりして、全国の私鉄にPRの場を提供しています。江ノ電には、全国にたくさんファンがいらつしやいます。お見えになるのは鉄道マニアの方もい

ますが、老若男女、ベビーカーでのお子さま連れもいらつしやいます。イベントでもお客様には絶対に事故があつてはいけないと細心の注意を払っています。

鉄道会社は多角経営です。江ノ電も鉄道のほかに、バス、不動産、観光と小さいながらも多角経営をしています。鉄道事業という建設とカ保線とか単純に見られがちですが、実際には商売もしなくてはなりません。そういう意味では、間口が広く奥行きもある面白い業種です。一般的に、土木の仕事はコーディネートですから、まとめる力、調整能力がきます。仕事を通じて視野が広くなり、自然にゼネラリストとしての素養が身についていきます。土木は「土」「木」、自然が相手です。実際はコンクリートや鉄を用いますが、自然と対峙するのではなく自然と共存して、フレキシブルな発想で

国土や国民の財産・生命を守っていくことが、技術者の大きな使命です。今まさに土木分野だけでなく、社会全体が理工系の技術者を必要としています。理工学部の学生はせっかく理工系の勉強をしているのですから、それを社会に生かして自分の存在価値を高めるとともに、社会貢献していってほしいです。

ふかやけんじ

1949年	東京生まれ
1967年	理工学部土木工学科入学
1971年	卒業、小田急電鉄株式会社入社
1997年	同社 運輸部長
1999年	同社 工務部長
2001年	同社 執行役員 運転車両部長
2003年	箱根登山鉄道株式会社 専務取締役
2005年	同社 取締役社長
2008年	江ノ島電鉄株式会社 取締役社長

学部長からのメッセージ

変わりゆくもの、 変わらないもの。



日本大学副学長
理工学部長
物質応用化学科教授
滝戸 俊夫

駿河台という名も、御茶ノ水という名も、その由来は江戸時代に遡りますが、街を歩いていてもさすがに江戸の面影を感じ

ることはありません。私が学生時代を過ごした昭和40年代の街並みとも、まったく違います。現在、JR御茶ノ水駅を降り立つと目の前で工事が行われており、駿河台の風景がさらに大きく変化していく気配がします。しかし、駿河台のシンボル「ニコライ堂」をはじめ、明治・大正・昭和初期を代表する近代建築の数々が、いまだに残っています。変わりゆく風景の中にあるからこそ、変わらないものが

際立ち、特別に感じられるのかもしれません。けれども、新たな風景や建物が将来の誰かにとって、変わらない、特別なものになる可能性もあります。理工学部は平成27年度末から、駿河台キャンパスの再生に向けて新校舎建設工事が始まります。平成30年には、地上18階、最大延床面積約2万7千平米を要する南棟(仮称)が完成する予定です。われわれもまた、変わりゆく風景をつくり出す当事

者となります。新たな駿河台キャンパスが、新たな駿河台を形づくる一役を担います。理工学部の前身、日本大学高等工学校が三崎町から駿河台に校舎を移したのは大正12年の関東大震災後のことです。昭和3年には工学部(現理工学部)が設置され、同年に1号館(旧1号館)が竣工し、ここから日本大学理工学部が歩みはじめました。学科数、学生数の増加に合わせて校舎を増設し、駿河台

キャンパスには現在、10号館まであります。昭和40年からは習志野校舎(現船橋キャンパス)での授業がスタートし、現在では4年間を船橋で過ごし駿河台は馴染みがない学生も多いかもしれせん。でも、皆さんの母校である日本大学理工学部のふるさとを片手に、ぜひ神田駿河台の街に触れてください。



神田駿河台の建築散歩

建築学科教授
大川 三雄

駿河台が大きく変わりつつあります。聖橋口のソラシティやワテラスの誕生。またJR御茶ノ水駅の整備計画や本学のキャンパス整備計画等々、これから数年後にはさらに大きく変貌を遂げることになります。今回は、神田駿河台に残る歴史的建造物を中心に、その歴史をたどりながら、この街の魅力を探ってみたいと思います。

駿河台の原型は、この時の帝都復興事業を契機として形づくられたものです。

ふたつの聖堂

駿河台という名称は、徳川家康とともに江戸に入ってきた徳川直参の三河衆が居を構えたことから「駿河」の名が付いたといわれています。江戸城および江戸湾を眼下に望む高台には、大久保彦左衛門や小栗上野介といった大名や旗本の屋敷が建ち並んでいました。明治以降は、それらの敷地が次々に民用地へ転用されましたが、昌平坂学問所があった文教地区としての性格からか、教育関連施設が数多く集まり、学生や教育関係者を相手とする古書店が建ち並ぶことになったのです。

江戸の名残を残していた駿河台は、関東大震災を契機に大きく変貌を遂げ、モダン都市に生まれ変わりました。今日の

駿河台の近代を象徴する最大の建築は、日本ハリストス正教会教団東京復活大聖堂（通称 **01 ニコライ堂**）です。ニコライ神父がこの地に教会を構えたのは1872（明治5）年、周辺にはまだ武家屋敷の名残があった頃です。聖堂は、1891（明治24）年に本格的なビザンチン様式として建設されました。当初は、ロシア本国の建築家シチュールポフによる5つのドームを戴く壮大な計画でしたが、資金面に無理があり縮小案としてまとめられたようです。その原案をもとに

日本での実施設計を担当したのは、日本近代建築の父と評されるジョサイア・コンドルです。

工事中に築いた足場の上から東京の街を360度にわたって撮影した人物がいました。それを見ると、麓の波が東京湾にまで続く江戸期そのままの姿が残っていたことがわかります（**A**）。完成したニコライ堂は、東京中からその姿を望むことができたが、関東大震災で鐘楼がドームの上に覆いかぶさるように倒れてドームを破壊し、内部が失火したため貴重なイコノスタシス（聖障）はすべて焼けてしまいました。建築家の岡田信一郎の設計で復旧されましたが、ドームと鐘楼の形が当初のものとは大きく変わり、一部に鉄筋コンクリートによる補強も施されているものの、ビザンチン特有のペンデンティブ・ドームの荘重な内部空間を体験することができます。

神田川の対岸にある **02 湯島聖堂**も、ニコライ堂と同時期に復興が進められました。江戸期には昌平坂学問所と呼ばれる重要な教育機関でしたが、明治になると文部省博物館が置かれ、さまざまな催し物や展覧会が行われるなど、日本の博物館の礎が築かれた場所です。関東大震災後、RC造で建て替えられました。設計は建築史家であり建築家でもあった伊東忠太が担当しています。全体的に中国建築の雰囲気をもっている点、屋根の上にさまざまな生き物の彫刻が置かれている点などに伊東らしさが表れています。

復興した湯島聖堂とニコライ聖堂、ふたつの聖堂を結びつける橋として完成したのが **03 聖橋**です。復興局土木部長の

太田園三と橋梁課長の田中豊の二人が中心となって隅田川や神田川に架かる復興橋梁の計画を進めました。曲線美を得意とする建築家の山田守に助言を得たことから、RC造によるドイツ表現派風の最新デザインの決定されたようです。震災復興時には土木と建築の共同が行われていたことも重要です。一方、聖橋と向き合う **04 お茶の水橋**は鉄骨造の桁橋で、聖橋とは対照的なデザインとなっています。前者は復興局、後者は復興局の依頼を受けて東京市が建設したものです。

湯島聖堂を見学の際には **05 神田明神**まで足を延ばしてください。関東大震災の復興によりRC造で建て直された社殿





は、内務省神社局出身の建築家・大江新太郎と早稲田大学の建築学科を創設した佐藤功一の共同設計によるものです。和風コンクリート造という新形式を代表する名作であり、建物全体のプロポーションの良さと切れの良い細部装飾が見どころとなっています。隣接する公園内には、神田にあった材木商（遠藤家）の商家、**06**神田の家が移築されています。『江戸黒』と呼ばれる黒漆喰の外観が特徴で、関東大震災の店舗併用住宅の一例として興味深いものです。

モダンイズム 駅舎の誕生

駿河台という場所の特性をもっともよく表しているのは、お茶の水橋から聖橋を眺めた風景だと思います。右手の土手の中腹にはプラットホーム、左手には神田川からの緑の土手が立ち上がり、正面には大きなアーチの聖橋が、水面に映した姿と一体となって奇麗な円弧を描き、時折、そのアーチの中に丸ノ内線の電車が通り抜ける。鉄道と橋、水と緑という人工と自然とが一体となった、都内でも珍しい都市景観となっています。こうした都市景観はどのようにして誕生したのでしょうか。

まずは鉄道ですが、都市内を走る鉄道は人や車との接触を避けるために高架とすることが必要でした。そのために新橋、有楽町、東京、神田の各駅では煉瓦造による高架橋がつくられました。一方、新宿から都心を目指していた甲武鉄道（現在のJR中央線）は、一般道からの分離という課題に対し、江戸城の外堀を使うという妙案を考え出しました。四谷、市

ヶ谷、飯田橋と続く線路は外堀の側面を利用して架設したものです。

関東大震災までの御茶ノ水駅は、甲武鉄道の終着駅として、お茶の水橋の西側の橋詰めの位置、現在の交番の辺りにありました。復興時に現在の位置に移動され、かつ隣駅の万世橋駅とつながりました。外堀を利用してきた鉄道は、御茶ノ水から神田方面に向かう途中で煉瓦造の高架鉄道へと変化しています。御茶ノ水を起点として、山の手から下町へ、外堀から高架へと、鉄道の敷設方法が大きく変化しているのです。

関東大震災後に完成した**07**JR御茶ノ水駅は、モダンイズム駅舎の名作といわれています。その理由は、外堀を使うことで道路との交差を可能とした上で、さらに「滞留から流動へ」という設計計画上の新しい理念が反映されているからです。それまでの駅舎は、待ち時間が長く、どのように駅舎内に客を滞留させるかがテーマでした。それに対し、車両も乗客者も多い都市内交通においては、人々をいかにうまく流動させるかがポイントになります。JR御茶ノ水駅では、街々駅前広場へ改札／プラットホームという人々の流れがスムーズに行われるように、乗客を「流動化」することを主眼としています。今日の駅舎では当然のことですが、駅舎が街と鉄道をつなぐ透明なパイプのような存在として計画された先駆的な建築であったわけですね。

もう一点は、中央線と総武線というふたつの路線の乗り換えをスムーズにするための工夫です。神田方面から入ってくる中央線と、秋葉原方面から入ってくる

総武線は、駅に入る手前で交差しています。これによって中央線（快速）と総武線（各駅）の乗り換えが、跨線橋を使わずに同じプラットホーム上で行えるようになりました。一見すると、外堀の側壁に2本のプラットホームが取り付いているだけのJR御茶ノ水駅は、こうした「流動の理念」が見事に具現化されたものなのです。設計者であった鉄道省の技師・伊藤滋は、鉄道駅舎における流動理念の研究によって学位を取得しています。

今度は、聖橋の上から秋葉原方面を眺めてみてください。ダイナミックな都市景観が展開されているはずです。足元には、神田川を横切る東京メトロ丸ノ内線が見えます。その上にJRの線路が走り、中央線は総武線の下をくぐり抜けて神田方面へ、一方の総武線は中央線の上をまたぎ長大な神田川橋梁を経て秋葉原駅へと向かいます。敷地の高低差を利用した幾つもの立体交差が織りなすダイナミックな構成です。土木事業と建築事業との共同によって、人工と自然が一体となった都市景観が生まれたのです。

幻の万世橋駅

駿河台から神田方面に降りていく途中は、以前は淡路小学校を中心に小住宅や長屋などが建ち並ぶ下町風情があるエリアでしたが、昨年、大規模再開発によってここに複合施設「ワテラス」が誕生しました。足回りの造園計画は本学の山崎誠子先生が担当したものです。

関東大震災の前まで、神田駅と御茶ノ水駅の間には万世橋駅がありました。新橋駅と東京駅と万世橋駅の3駅は帝都を



10 09



08

近代生活の啓蒙の拠点

明治期の駿河台を象徴するのがニコライ堂とすれば、大正・昭和戦前期を代表する建築が**13**山の上ホテルです。多くの文人たちに愛される名ホテルですが、

代表する駅として、いずれも建築家の辰野金吾の設計による煉瓦造の重厚な駅舎が建っていました。万世橋駅は地震で倒壊したのを機に廃駅となり、その場所に「鉄道博物館（後の交通博物館）」がつけられました。この跡地に昨年オープンしたのが、旧万世橋駅時代の煉瓦の高架線を活かした商業施設**08**マーチエキュート神田万世橋です。かつてのプラザ

ホームの部分にはカフェテリア、神田川側には親水性を狙った歩道デッキが設置され、おしゃれな商業空間に生まれ変わっています。施設内にはLIBRARYもあり、この地域の歴史を知ることができます。取り壊された交通博物館の建物は、1935（昭和10）年に設計されたモダニズムの建築でした。設計は土橋長俊という鉄道の技師で、ル・コルビュジエの事務所に入所した経験をもつ人物です。現存する東京メトロ丸の内線・御茶ノ水駅も土橋の設計です。

都内有数の繁華街であった万世橋駅周辺には、いまも昭和戦前期のレトロな雰囲気を残す和風店舗が建ち並んでいます。あんこう鍋の**09**いせ源、鳥鍋の**10**ぼたん、甘味処の**11**竹むら、蕎麦の**12**神田まつやなど、昭和初期に流行した数寄屋風の手法を取り入れた店舗建築が建ち、神田連雀町と呼ばれていた一帯の在りし日のにぎわいを今日に伝えています。

近代生活の啓蒙の拠点

幾何学的な細部意匠を特徴とするアー・デコ様式の建物は、キリスト教の伝道士であり、建築家としても活躍したウイリアム・メレル・ヴォーリズが設計しました。近江八幡を拠点にして全国的に活動したヴォーリズは、教会、学校、住宅など主にミッシェン系統の建築を数多く手掛けました。そのヴォーリズが関東地域の活動の拠点に選んだのが御茶ノ水の街で、現在もJR御茶ノ水駅前のビルの中に「近江兄弟社」の看板を掲げた東京事務所が置かれています。そのため、ヴォーリズの主要な作品が駿河台につくられました。啓蒙的な婦人雑誌として知られる「主婦の友」の旧・本社建物（**08**）もヴォーリズの設計です。本館跡地には現在、日大病院の建設が進められています。本館の隣に建てられた別館はカザルスホールを含む**14**お茶の水スクエアという建物で、現在は日本大学の法科大学院として使用されています。設計は建築

1937（昭和12）年に完成した折には、佐藤新興生活館という施設でした。九州出身の財界人で石炭王ともいわれた佐藤慶太郎は、自らの財産を社会貢献に帰すべく文化・啓蒙活動を行った篤志家としても知られています。その活動のひとつが、芸術文化発展のために私財を投じた東京府美術館（現 東京都美術館）の建設で、もうひとつが生活文化改善のための拠点として立ち上げた佐藤新興生活館でした。近代生活の普及を目的に女子教育などを行った組織ですが、佐藤の母校である明治大学に隣接させ、自らの理想を追求するための夢の館としてつくりました。

界の鬼才・磯崎新で、1925（大正14）年竣工の主婦の友社ビルを保存しつつ、新たな機能を加えたりノベーション建築の先駆例のひとつです。

神田駿河台という地域は、関東大震災後に誕生したモダン都市東京の中にあつて近代生活や近代文化に関するさまざまな啓蒙活動の拠点となってきました。通称「マロニエ通り」には、自由主義の教育者として知られる西村伊作の創設した**15**文化学院があります。与謝野鉄幹・晶子夫妻をはじめ、大正・昭和期に活躍した文学者や芸術家たちを教員として集め、独自の教育を展開した学校です。1937（昭和12）年につくられたRC造の校舎は、大きなアーチを抜けると中庭に至るヨーロッパ風の形式でした。

近代生活の啓蒙の拠点

駿河台の西側は大きな段差となつて三崎町へとつながる地域です。この辺りには多くの専門学校が点在していますが、建築としては**16**アテネフランセの建物が注目されます。ル・コルビュジエに学んだ日本人建築家のひとりである早稲田大学の教授でもあった吉坂隆正の設計です。全体的に量塊的（マッシブ）な形態で、外壁に原色を用いている点も斬新です。

神田駿河台という地域は、関東大震災後に誕生したモダン都市東京の中にあつて近代生活や近代文化に関するさまざまな啓蒙活動の拠点となってきました。通称「マロニエ通り」には、自由主義の教育者として知られる西村伊作の創設した**15**文化学院があります。与謝野鉄幹・晶子夫妻をはじめ、大正・昭和期に活躍した文学者や芸術家たちを教員として集め、独自の教育を展開した学校です。1937（昭和12）年につくられたRC造の校舎は、大きなアーチを抜けると中庭に至るヨーロッパ風の形式でした。

駿河台の西側は大きな段差となつて三崎町へとつながる地域です。この辺りには多くの専門学校が点在していますが、建築としては**16**アテネフランセの建物が注目されます。ル・コルビュジエに学んだ日本人建築家のひとりである早稲田大学の教授でもあった吉坂隆正の設計です。全体的に量塊的（マッシブ）な形態で、外壁に原色を用いている点も斬新です。



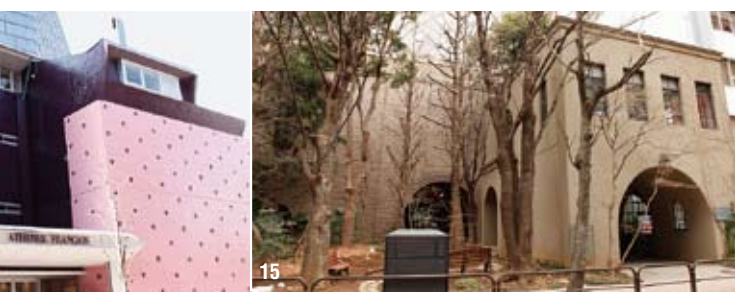
08



17



16



15



三崎町の方に下りると、**17**カトリック神田教会の建物が見えてきます。1896(明治29)年からこの地に教会を構えてきましたが、三崎大火(大正2)や関東大震災等を経て、1928(昭和3)年に現在の教会が建てられました。マックス・ヒンデルの設計によるRC造で、内部は半円アーチのヴォールト天井が特徴的です。神保町交差点の方に向かう途中には救世軍の建物などもあり、キリスト教の活動が活発であったことがわかります。

神田神保町は世界に冠たる古書街として知られています。在来の和風建築の前面部分に銅板などを用いた洋風のファサードを付けた、いわゆる「看板建築」が数多く建てられました。近年は急激に姿を消しつつあります。歴史的なファサードを保存し内部を新築したずらん通りの**18**文房堂や、本格的な店舗建築として風格のある老舗**19**一誠堂書店といった建物もあります。

旧1号館の建築

関東大震災以降、ニコライ堂の復興、御茶ノ水駅の新設、聖橋と御茶ノ水橋の復旧などが急ピッチで行われる中、同時に日本大学工学部(現理工学部)の旧1号館(◎)の建設も進められました。

1929(昭和4)年に完成した旧1号館は、RC造地下1階地上5階建てで、日本大学理工学部の前身である日本大学高等工学校卒業生たちの基本構想に基づき、校長の佐野利器と設計教育の中心にいた建築家の高橋貞太郎の助言によって完成したものです。簡略化されたネオ

ゴシック様式で、尖塔アーチの大きな玄関部を備えた建築でした。近くに建つ中央大学や明治大学の建物が赤褐色の煉瓦タイル色であったのに対し、旧1号館は白いタイルを身にまとっていたことから他の大学と比べてモダンな印象の校舎でした。建築構造学、とくに耐震工学の先駆者であった佐野利器は、「科学」を主眼とするエンジニア教育に力を注ぎ、その建築観は「単純で堅実、虚飾を廃した簡潔性を旨とする」ことを理想としていました。旧1号館は、そうした佐野の建築理念が具現化されたものです。2003(平成15)年に72年の生涯に幕を下ろしましたが、「堅実で簡潔」という理念は新しい1号館にも受け継がれています。



社の隣にある**20**コトブキ本社ビルは、1959(昭和34)年に建てられたオフィスビルを2004(平成16)年に保存再生したものです。ル・コルビュジェの作品を思わせるプロポーションと横長連続窓のシャープな外観を特徴としています。モダンズム建築のコトブキ本社ビルが、ポストモダンのお茶の水スクエアと太田姫稲荷神社とに挟まれて建つ、不思議なエリアとなっています。

さて、建築散歩の最終地点は一つ橋にある**21**学士会館にしたいと思います。暗褐色のスクラッチタイルに身を包んだ外観は、シンプルですが部分的に様式的な細部を残した昭和初期らしい建築です。最近ではテレビや映画の撮影にも使われるようになりました。設計は佐野利器と高橋貞太郎の師弟で、昭和戦前期の日大理工の建築教育を支えた二人による建築作品です。つまり理工学部の旧1号館とは、兄弟なしいし親せき筋に当たる建築といつても良い建築です。高橋は、佐野の肝いりでつくられた震災復興助成会社の技師としても活躍しました。この会社は日大理工の土木と建築の卒業生の多くが活躍したことも知られています。旧1号館もこの会社からの助成を受けて建てられたものです。高橋は戦前期の日大建築を支えた一人として、重要な役割を果たした建築家です。

神田明神、湯島聖堂から南下して一ツ橋地区まで歩いてきました。急激に変貌しつつある街ですが、不思議な落ち着きと歴史性を感じさせる街でもあります。ぜひ、神田駿河台の建築散歩を楽しんでください。



東京医科歯科大学
医学部付属病院

湯島聖堂前

昭和初期竣工

06 神田の家

千代田区外神田宮本町 2-16 宮本公園内
★千代田区指定有形文化財

05 神田明神

 1934年竣工

千代田区外神田 2-16-2

1616年に江戸城の表鬼門守護にあたる現在の地に遷座し、幕府により社殿造営。以降「江戸総鎮守」として江戸を守護。

昌平小入口

昌平小学校

02 湯島聖堂

 1935年竣工

文京区湯島 1-4-25

学校教育発祥の地。現在は史跡として管理され、漆黒のインテリア「大成殿」は土日祝日のみ公開。コンクリートの中に墨を混ぜた黒漆喰のような仕上げが個性派の建築家であった伊東忠太の美意識を伝える。

神田明神下

外神田二丁目

昌平橋

03 聖橋

 1927年竣工

名前は一般公募によって決定。「ニコライ堂」と「湯島聖堂」をつなぐことから。

聖橋

07 JR 御茶ノ水駅

 1932年竣工

千代田区神田駿河台 2-6

御茶ノ水駅

東京メトロ丸ノ内線

本郷通り

4号館

3号館

7号館

6号館

9号館

5号館

ウエルトンビル

10号館

駿河台三丁目

三井住友海上火災保険

駿河台

01 ニコライ堂

 1891年竣工

千代田区神田駿河台 4-1-3

敷地内には、重文指定を受けている聖堂以外にも主教館や旧図書館、門衛所などの貴重な建築物が現存。西側と北側に門があるが、かつては南側(理工学部7号館裏)に階段があった。

ソラシティ

ワテラス

08 マーチエキュート神田万世橋

 2013年竣工(万世橋高架橋:1912年竣工)

千代田区神田須田町 1-25-4

11 竹むら

 1930年竣工

千代田区神田須田町 1-19

★東京都選定歴史的建造物

神田郵便局前

神田郵便局

JR 神田万世橋ビル

淡路町二丁目

09 いせ源(本館)

 1937年竣工

千代田区神田須田町 1-11

★東京都選定歴史的建造物

須田町

10 ぼたん

 1929年竣工

千代田区神田須田町 1-15

★東京都選定歴史的建造物

須田町一丁目

12 神田まつや

 1925年竣工

千代田区神田須田町 1-13

★東京都選定歴史的建造物

淡路町

淡路町駅

小川町駅

小川町

美士代町

東京メトロ千代田線

司町二丁目

千代田小学校

多町二丁目

神田駅北口

都立工芸
高等学校

昭和第一
高等学校

順天堂大学
医学部附属順天堂医院

外堀通り

神田川

順天堂前

神田駿河台の 建築散歩 MAP

御茶

お茶の水

交番

15 文化学院

2008年竣工 (旧校舎: 1936年竣工)

千代田区神田駿河台 2-5
建て替えに際し、卒業生らの要望により旧校舎のアーチ部分のみ保存。

04 お茶の水橋

1931年竣工
橋下は都心には珍しく溪谷の面影を残す。

16 アテネフランセ

1962年竣工

千代田区神田駿河台 2-11
斜面地の特性を生かした平面計画等、大変に個性的な学校建築。

神田女学園中学校
高等学校

13 山の上ホテル(本館)

1937年竣工

千代田区神田駿河台 1-1

池波正太郎や吉行淳之介など文人の逗留するホテルとして有名で、館内には文人から寄贈された絵画等を展示。

17 カトリック神田教会

1928年竣工

千代田区西神田 1-1-12
保護聖人はフランシスコ・ザビエルで、遺骨の一部が収められている。

8号館

明治大学
アカデミーコモン

2号館

駿河台
日本大学病院

日本大学歯学部附属
歯科病院

1号館

明治大学

20 コトブキ本社ビル

1959年竣工

千代田区神田駿河台 1-2-1

14 お茶の水スクエア

1987年竣工

千代田区神田駿河台 1-6

当初は主婦の友社ビル竣工時の外壁をそのまま保存する予定だったが、劣化が激しかったため当時の外観を継承しつつ新築された。右手の棟の2階には設計者の名を冠したヴォーリス・ホールがあり、法科大学院の“模擬法廷”として使用。

北神保町郵便局

お茶の水
小学校

大田姫稻荷
神社

小川町郵便局

神保町駅

岩波ホール

都営新宿線

さくら通り

神田すずらん通り

19 一誠堂書店

1931年竣工

千代田区神田神保町 1-7

18 文房堂

1922年竣工

千代田区神田神保町 1-2-1

駿河台下

靖国通り

神田一橋中学校

神保町一丁目

21 学士会館

1928年竣工

千代田区神田錦町 3-28

★国登録有形文化財
内部には重厚なインテリアの諸室もあり、結婚式場としても人気。

神田警察署

一ツ橋

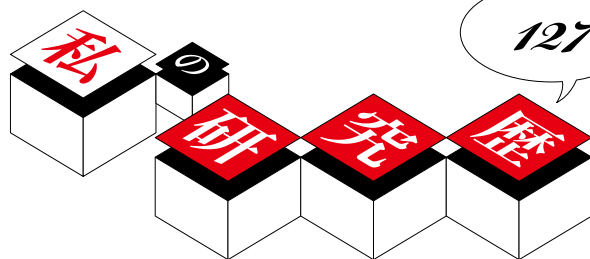
税務署前

神田税務署

正則学園
高等学校

錦城学園
高校

神田警察署前



物理学科教授

植松 英穂

武谷三男と科学史

1. 科学史との出会い

ガリレオやニュートンの名は誰もが知っている。それは、大抵の教科書に書かれているからである。科学史と社会の接点はこのようなところに見られるが、それに対して学問としての科学史は、社会的認知度が極めて低い。

私が科学史の世界に入ったきっかけは、大学受験に失敗し、浪人したときに始まる。そのときは、イタリアの自転車の洗練された機能美に魅了されていたので、大学では機械工学を学ぶうと思ってた。それまで夏目漱石などの文学しか読んでこなかったもので、せっかく浪人するのだから科学的な本をたくさん読もうという突如変な思いに駆られて、近所の本屋に行った。最初に手にした本は、武谷三



男著『原水爆実験』（石波新書）であった。この本と出会うことになった。社会における科学および科学者について考えさせられる本であったからである。そこで展開されている武谷の物理学的世界観に魅了され、早速、『武谷三男著作集』全6巻を買い求め、彼の著作を読みふける生活が始まった。

その中に、武谷が卒業論文として書いた「ニュートン力学の形成について」が載っていた。これは、物理学の発展には順序があるということを主張した論文で、武谷三段階論として知られている。物理学は現象論的段階、実体的段階、そして本質論的段階という三つの段階を経て発展してきたという考えで、武谷が科学史から見いだしたものである。この武谷三段階論は、

湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞することになる素粒子の研究をしている時代に出され、当時、物理学者に多大な影響を与えた。それは武谷三段階論によって物理学の研究の進むべき方向が与えられると考えられたからである。このような経緯で、私は物理学そのものではなく、物理学の論理構造、方法論、そして科学史に関心を深めていった。

2. 大学における科学史

私はどこの物理学科でも科学史を学べると思い、実際に全国の大学を調べてみると、物理学科に科学史の講座があるのは、日本大学理工学部だけであることを発見した。受験勉強をおろそかにしていたが、理工学部に入学することができた。3年生

の終わりに、当時まだ選択であった卒研で科学史研究室を希望し、本格的に科学史を学ぶこととなった。そこで出会ったのが恩師、現日本大学名誉教授西尾成子先生である。ちょうどそのときに、すでに私が入学した年に亡くなられていた科学史研究室の初代教授、広重徹の著作集を出版することが企画されていた。私もお手伝いさせていた。広重の著作を次々に読んで分かったのは、最初広重は湯川の下で素粒子論を学んでいたが、科学史に興味を覚え、武谷三段階論に基づく科学史の研究を行うようになったことである。ところが彼は、実際に科学史の文献を読むことで、科学史は武谷の言うような論理構造で発展してきているわけではなく、各時代背景の中で科学が創られてきていることを見いだし

た。それで広重は武谷三段階論批判を強烈に行うようになり、学問としての科学史の研究を目指すようになった。これにより、私は反武谷派の総本山で学んでいることを知った。

3. 科学史の研究

西尾先生とのさまざまな議論をとおして、科学史の研究方法を身につけていったが、私には自由な研究環境が与えられた。最初に選んだ研究テーマは、量子力学が創られるきっかけとなった19世紀の熱輻射論史であった。大学院に進学したが、科学史の研究では短期間での学位取得は難しく、5年在籍し退学した。その後の身の振り方は何も考えていなかったが、専門学校非常勤講師の話が入り、科学史を教えることとなった。1年後、科学史研究室で助手を募集することになり、私が採用された。これは西尾先生に引つ張っていたかもしれないかと思っている。とにかく研究者としての第一歩を踏み出した。このころ、研究テーマを19世紀全般の物理学史に広げるとともに、社会と科学という観点から現代史としてエネルギー問題と

原子力に関心を持つようになった。物理学史は、量子力学や相対論のような物理学において画期的な研究に関しては調べられてきているが、注目されない分野については空白地帯であることが分かり、私は日の当たらない分野について調べようになった。その後、西尾先生から専任講師になるように言われ、学位論文として19世紀の物性物理学史を書いた。

現代史としての原子力は、現在でも私の重要な研究テーマの一つであるが、これも同様、日陰の部分である原子力防災と放射性廃棄物の歴史に注目してきた。ところが最近それらは日陰ではなくなりつつあり、社会を騒がせるようになってきている。そのきっかけは2011年3月11日14時46分に起こった東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故である。このとき、私は板橋病院の手術台の上で麻酔により眠っていた。手術は中断されたが無事終わり、2日後に病室に戻りテレビを付けたら、原子力発電所を中心とする円が色分けして描かれている地図が映し出されていた。この地図を見ただけで原子力発電所が極めて危険な状態に

あることを瞬時に理解した。それは原子力防災を調べていたからである。3月なので北風が強く吹いていた。原子力発電所から放射性物質が放出されると数日後には東京に届いてしまう。入院している場合ではなかったが、体には管がたくさん付いていたため身動きができなかった。

事故の状態は、テレビで報道されていた政府等の発表ではなく、住民の動きでだいたい分かり、それとともに菅元首相の考えや動きを予想することができた。彼が書いた『東電福島原発事故 総理大臣として考えたこと』（幻冬舎）を読むと、私が考えていたようなことが書かれていた。このようなところで原子力防災の知識が役立つとは思ってもいなかったが、また最近小泉元首相による反原発の言動が現れたことで、放射性廃棄物がにわかに注目されるようになった。放射性廃棄物は新しい問題ではないが、首相経験者が注目したことが興味深い。福島原発事故を経験したことで、原子力に対するイメージが変わったのであろう。原子力はエネルギーだけに注目されてきているが、必然的に発生するゴミにも

注目しなければならぬ。一般のゴミ問題も解決が難しいが、原子力のゴミ問題はさらに解決が難しい。小泉元首相は原子力のゴミという観点からの世代間倫理として反原発を主張している。彼が首相時代に反原発を主張していたら、日本はどのような変わっていたであろうか。

私の研究は、卒研究生や院生の研究に還元しているが、逆に多様な考えを持つている学生からも影響を与えられている。大学は学問を学びたい人と教えたい人の共同体として発足して以来、今世紀で1000年の伝統を持つが、私は絶えず原点に戻り、学生と教員の在り方を模索している。

うえまつ えいすい

1955年	東京生まれ
1980年	日本大学大学院理工学研究科 博士後期課程物理学専攻単位取得退学
1981年	物理学科助手
1992年	同 専任講師
2000年	同 助教授
2003年	同 教授



第3回 国際学生 BIM&VR デザインコンテスト オンクラウド ワールドカップ賞 (最優秀賞) 受賞

2013年11月21日



慶應義塾大学大学院池田教授よりカップ授与



受賞者全員で写真撮影

「国際学生 BIM & VR デザインコンテスト オンクラウド」とは、BIM (Building Information Modeling)、VR (Virtual Reality) という3次元空間を創るソフトを活用して、先進的な建築、土木、都市、ランドスケープなどの総合的なデザインを行う国際コンペです。今回で3回目の開催となり、11月21日に目黒雅叙園にて最終公開審査および表彰式が行われました。エントリー総数は35チーム(日本10、海外25)で、そのうち7チーム(日本5、海外2)がノミネートされ、最終公開審査に進みました。

今回の課題は、「グローバルな都市のサステイナブルな駅前空間」というもので、JR山手線の品川・田町駅の間の新駅が対象です。そのため、かなり具体的な提案の内容になりました。

私はチームメンバー6名とともに、このコンペに参加しました。午前の部では、公開最終審査としてノミネートチームによる5分間のプレゼンテーションが行われました。これを経てノミネートされた7作品から、最優秀賞・優秀賞・審査委員賞を決めます。公の舞台でのプレゼンテーションは、私にとっては初めての経験で、さらに発表順が最後だったということもあり、かなり緊張していました。発表時間は短かったので、落ち着いてプレゼンテーションすることができましたが、質疑応答では、英語での質問に対してどのような回答を求められているの

かを理解するのに、非常に苦労しました。人を引きつけるプレゼンテーション能力と、それを多くの人に伝えるための英語力をもっと磨いていきたいと感じる、良い経験となりました。午後の部では特別講演がありました。印象に残ったのはグリニッジ大学のエドウィン・R・ガリア教授による避難解析シミュレーションの研究です。実際に避難する人の心理状態を考慮して、それをシミュレーションでどのように表現していく必要があるか、という非常に興味のある内容でした。

表彰式後は、ネットワークイングパーティーが催されました。社交的な会場のイメージでしたが、主催企業によるピアノ演奏やその企業の製品を活かしたシミュレーションゲームなどのイベントもあり、笑顔の絶えない

非常ににぎやかなパーティーでした。その雰囲気もあって、参加学生同士だけでなく、日本・海外問わず多くの方々とお話しでき、交流を深められました。

このコンペは、私にとって二度目の経験でしたが、大規模でリアルな3次元空間を作り出せるこの技術は、将来の大きなプロジェクトにおける提案の幅、そして可能性が広がる技術だと思っています。今後、BIM・VRが実社会で多く活用されてほしいと思います。



受賞作品「Breathing Station」

File no. 43



駿河台漫画研究会

船橋キャンパスの漫画研究会 (C.L.B.) の1年生が、2年生から駿河台キャンパスに移ると、こちらに入り直すこととなります。活動のスケジュールは船橋とほぼ同じで、年に2回、春本と秋本という部誌をつくり、他学部との批評会を行います。C.L.B.とは違い1年生がいないので、キャリアのハンディはありません。ということは、全体のクオリティーに関して言い訳ができないということでもあるのですが……。批評会では、優秀

賞を目指してがんばっています。

マンガを描くのはつらくもあり楽しくもあるのですが、人に読んでもらうと達成感があります。孤独な個人作業のように思われるかもしれませんが、描き始める前はお互いにネームを見せ合い、意見交換します。一人で描く人もいますが、部室で数人が集まり、励まし合いながら描く人もいます。

年に2回、マンガを描くチャンスがあるので、まじめに取り組みは確実にうま

くなり。初心者の拙い作品も読んで批評をいただけるので、それを生かせば必ず上達します。マンガは誰かに読んでもらうことが大事です。勉強と同じで、自分では気づかないことも「ここをこうすれば、もっと良いんじゃない?」と言ってもらえると、わかるようになります。

他学部では、週に1回集まってマンガの講習会をしているという話も聞きます。私たちは、ほぼ個人の努力に任せているような状態なので、今後の活動内容を少し考え直して、作品のクオリティーをさらに上げていきたいです。



File no. 44

理工自動車部



1941年に創部した、歴史あるサークルです。1964年の東京オリンピックでは、部車で選手を輸送したと、古い先輩が話してくれました。



8台ある部車の整備と交通総合試験路での運転練習が、主な活動内容です。部車は使わなくなった古い自動車をOBから譲り受けて、メンテナンスして乗っています。自宅に自動車がなくても運転練習ができます。メンテナンスよりドライビングが好き、という人のほうが多いので、交通総合試験路でスポーツ走行できるというのは、大きなメリットです。

夏宿舎では毎年、サーキットを貸し切って運転の練習をします。一日中練習しますから、みんな腕を上げます。部車は

車検のついていない、公道を走れない車がほとんどなので、その移動の手配も部員が行います。そうした計画をとおして、経験や知識を積むことができます。秋には「日大魂」といって、他学部の自動車関連サークルが集まり、サーキットでの練習とタイムアタックを行います。オートサロンやモーターショーにも一緒に行きますし、たまに自分たちの自動車が集まって、ドライブするのも楽しいです。高校生のときは、「自分の車なんて、社会人にならなきゃ持てないだろう」と思っていたのですが、入部してみると先輩たちが持っているのが、影響されてほしくなってしまう。

昔より、自動車の人気はなくなったかもしれませんが、確実に自動車好きな人はいますし、このサークルには自動車好きが集まっています。部員は自動車が好き、運転が好き、という人ばかりです。同じ趣味の友達ができますから、自動車好きの人にはぜひ理工自動車部に入ってほしいです。

BOOK



『波紋と螺旋とフィボナッチ』

近藤 滋 著／秀潤社

シマウマがなぜ縞模様なのか素朴な疑問はみんなが持っているも、その理由を解き明かす研究はこれまでありませんでした。著者は本業が免疫学者ながら、趣味で熱帯魚の縞模様の写真を数カ月にもわたり毎日撮影して縞模様の変化を調べているうちに、熱帯魚の縞模様の形成メカニズムは数学的には拡散反応方程式として表せるチューリング不安定性という物理現象にあることをつきとめました。その成果は Nature に掲載され、現在大きな評価を得ています。

素朴な疑問からいかに面白く重要な研究成果へと発展させていくか、著者の研究秘話は未来の研究者を目指す読者に大きな感銘を与えることになると思います。
(一般教育物理系列准教授 中原 明生)

MOVIE

『風立ちぬ』

零式艦上戦闘機の設計者である堀越二郎の少年時代から 30 代までの半生を描いた作品です。

この作品の見どころは、堀越二郎が航空技術士として成長していく過程と堀越二郎が生きた時代背景が細かく表現されているところです。私は、何度も仕事で挫折を経験してもまた挑戦していく堀越二郎の姿から、夢を持った技術者の魂に感銘を受けました。また、本作は監督である宮崎駿が長編アニメ製作を引退することでも話題になった作品です。

まだ観ていない将来の技術者には、ぜひ観ていただきたい作品です。

(機械工学専攻博士前期課程 1 年 三村 健登)



© 二馬力・GNDHDTW

MOVIE



『最強のふたり』

これは、人と人との出会い、交流を大切にしたいと思える、すてきな映画です。

身体が不自由な富豪と、その介護人となったスラム街育ちの青年の二人が垣根を越えて最強の友情を結ぶ、実話をもとにしたヒューマン・コメディです。まったく共通点のない二人が衝突し、次第にお互いを受け入れ、共に人生を謳歌する姿は、人と人のかかわり合いで人生が大きく変わることを感じさせ、人生をどう楽しみ、自分にとって何が良い人生であるのかを考えさせてくれます。また、仲の良い二人の掛け合いはコミカルで、笑顔になれる心あたたまる作品です。
(物質応用化学科 4 年 村 綾華)

<p>学生課（保健室、学生相談室）</p> <p>① 学生の厚生補導に関する事項 学生の健康管理・健康診断関係（保健室） 学生相談に関すること（学生相談室） 傷害事故・治療費に関すること 学部祭・スポーツ大会等行事に関すること 施設（教室・体育施設・厚生施設・八海山天文台）の貸出し 学内外各種奨学金の取扱い 学生現住所等の変更手続きに関すること 通学証明書・学割証の発行 下宿・アパートの紹介 学生寮（武蔵俊英学寮）に関すること 留学生のサポート サークル（学生団体）活動、各届出の取扱い 学生の海外渡航に関すること 学生手帳の作成 拾得物・遺失物の保管等</p> <p>② 学生支援関連事項 八海山セミナーハウス・天文台の維持管理 サークル（学生団体）顧問のサポート 学生食堂・購買部・コンビニ（船橋校舎）等の営業に関すること</p> <p>学生課 駿河台：1号館1階 03-3259-0608 船橋：14号館1階 047-469-5395</p> <p>保健室 駿河台：5号館2階 03-3259-0612 船橋：14号館1階 047-469-5222</p> <p>学生相談室 駿河台：5号館2階 03-3259-0611 船橋：14号館1階 047-469-5296</p> <p>学生相談室船橋校舎予約 E-mail：funabashi-soudan@sps.cst.nihon-u.ac.jp</p>	<p>就職指導課</p> <p>① 就職に関すること 就職・進路相談 求人票の公開 就職対策プログラムの実施 （就職支援講座/エントリーシート関係/面接対策関係/SPI3等（就職試験）対策） 公務員試験対策プログラムの実施 （公務員試験対策講座/キックオフセミナー/模擬面接/論文添削） 教員試験対策プログラムの実施 （DVD講座/模擬試験）</p> <p>② 求人に関すること</p> <p>駿河台：9号館1階 03-3259-0644 船橋：図書館1階（キャリア支援センター） 047-469-5202</p>	<p>announcement 事務局からの お知らせ</p> <p>各課の仕事を紹介します。</p> <p>①：学生生活に関する業務 ②：教職員・対外に関する業務 ■の業務は、それぞれの課で直接手続きするなど、学生諸君と関係の深いものです。</p>
<p>管財課</p> <p>① 教室・実験室等施設の修繕に関すること 施設・設備関係のメンテナンスの窓口 電気関係トラブルの窓口 各種建物図面等の相談 マイク等物品の貸出し 冷暖房の調整・蛍光灯の交換等室内環境に関すること 粗大ゴミ・産業廃棄物の廃棄に関すること</p> <p>② 施設・設備関係の営繕・改修に関すること 物品の調達に関すること 業務委託・リースに関すること 火災・損害保険に関すること 固定資産の管理に関すること 粗大ゴミ・産業廃棄物・実験廃液の廃棄に関すること</p> <p>駿河台：10号館2階 03-3259-0620 船橋：13号館1階 047-469-5620</p>	<p>図書館事務課</p> <p>① 学習・研究に必要な資料・情報の収集と提供 資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写 レファレンスサービス 図書館相互利用（文献複写・現物貸借等） 図書館所蔵資料の検索（OPAC）</p> <p>② 教育・研究に必要な資料・情報の収集と提供 資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写 レファレンスサービス 図書館相互利用（文献複写・現物貸借等） 図書館所蔵資料の検索（OPAC）</p> <p>駿河台：6号館2階 03-3259-0639 船橋：図書館2階 047-469-5340</p>	<p>教務課</p> <p>① 履修登録・成績管理に関すること 授業及び定期試験に関すること 学生証及び在学・成績等証明書の発行に関すること 休学・復学・退学・除籍・卒業に関すること 教職課程及び学芸員課程に関すること 休講・補講に関すること 学生の学会参加等に伴う経費補助に関すること 海外留学に関すること</p> <p>② 卒業生に対する証明書の発行</p> <p>駿河台：1号館1階 03-3259-0580 船橋：14号館1階 047-469-5304</p>
	<p>会計課</p> <p>① 学費の振込み（依頼書の発送・台帳の電算処理・管理・保管） セミナーハウス使用料金の収納 TAの交通費の支払 その他各費用の収納及び支払（船橋校舎は庶務課が窓口）</p> <p>② 予算申請書・決算報告書に関すること 経理統計及び報告に関すること 補助金の経理に関すること 学術研究助成金及び出版助成金の経理に関すること 後援会の経理に関すること 寄付金に関すること その他経理に関すること</p> <p>駿河台：10号館4階 03-3259-0598 船橋：なし</p>	<p>教務課（入試係）</p> <p>② 入学試験（学部・大学院・短大）に関する情報提供 受験生の理工学部見学等に関する入試広報活動 受験生へ学部案内・募集要項等の配布</p> <p>駿河台：1号館1階 03-3259-0578 船橋：13号館1階 047-469-6249</p>
	<p>研究事務課</p> <p>① 理工学部が独自に学術交流を締結している 覚書校との交換留学生派遣及び受け入れに関する こと</p> <p>② 教員の学術研究活動に関する こと 理工学研究所に関する こと 産官学連携研究に関する こと 覚書校との教員の派遣及び受け入れに関する こと</p> <p>駿河台：10号館3階 03-3259-0929 船橋：なし</p>	<p>庶務課</p> <p>① キャンパスの美化（清掃等）に関する こと キャンパスの安全（防災・警備等）に関する こと（食料と水の備蓄及びAED設置等） 休日・夜間の研究室等の使用手続きに関する こと TAの交通費の申請に関する こと TAの出勤簿に関する こと TA・RAの手当に関する こと 理工サーキュラーの発行</p> <p>② 諸式・諸行事に関する こと 公開市民大学に関する こと 後援会に関する こと 郵便及び宅配便に関する こと 教職員の国内・海外出張手続きに関する こと 各種公文書の受信及び保管に関する こと 各種渉外に関する こと 会議室等施設使用の手続きに関する こと 教職員の福利厚生等に関する こと</p> <p>駿河台：10号館6階 03-3259-0514 船橋：13号館1階 047-469-5330</p>



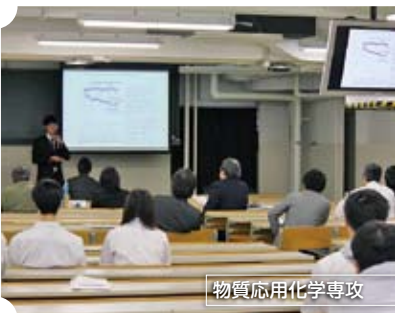
社会交通工学専攻



機械工学専攻



精密機械工学専攻



物質応用化学専攻



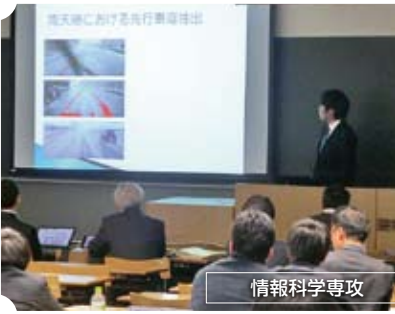
建築学専攻



Event Report
2014.2.24-27
FUNABASHI-SURUGADAI



物理学専攻



情報科学専攻



航空宇宙工学専攻



電気工学専攻



平成25年度
大学院理工学研究科
修士論文発表会



電子工学専攻



医療・福祉工学専攻



不動産科学専攻



数学専攻



海洋建築工学専攻

http://www.cst.nihon-u.ac.jp/public_relations/circular/



今回の特集は、読み応えのある「神田駿河台の建築散歩」です。受験生の皆さんにも、理工学部の学生にも、駿河台の街の建物が歴史的価値のあることに気付いてほしいのです。何気なく使っているJR御茶ノ水駅が、線路を交差させて乗り換えを容易にしていることに気付いた人はいるでしょうか？ 学ぶということは、とくに理工学部では身の回りにあるものを再発見し、その意味を考えることが重要です。巻頭の「CST+なひと」でも、深谷研二さんが社会に生かす理工系技術について語っておられます。ぜひ、この冊子を片手に街を歩いて自分なりの発見をしてください。(重枝)

Circular

VOL.44
2014.SPRING
No.160

発行
日本大学理工学部広報委員会

広報委員長・編集長
重枝 豊

編集委員会
藤井 敬宏 勢力 尚雅 関 文夫 下川 澄雄 佐藤 光彦 山中新太郎 坪井 望太郎
岡田 智秀 上田 政人 齊藤 健 出井 裕 大貫 進一郎 岩田 展幸 木原 雅巳
谷川 実 浅井 朋彦 保谷 哲也 長峰 康雄 諏訪 部 健 田中 和仁 金木 聡和
永田 康介 小池 文夫 塚田 淳 鈴木 智子

編集協力
株式会社ムーンドッグ (長谷川 香 細田 明子 熊木美千代 伊藤 涼子)

14032432000